

## 英語でひらく 世界のとびら

8月4日～6日 英語キャンペーン



首都圏の大学生でつくる日本学生協会(JNSA)基金の学生と小中学生が英語で交流する「英語キャンペーン」が穂高北小学校で開かれました。小学2年生から中学2年生までの72人と大学生、香港・ドイツからの留学生13人が参加し、英語ゲームや入国審査、レストランでの会話などを楽しみながら学びました。

同校英語専科の松島千尋さんは「英語を通じて世界に目を向け、可能性を開花してほしい」と期待を話し、同校5年生の百瀬向日葵さん(11)は「3日間で自信がつき、楽しく英語を話せるようになった。JNSAの人は発音がきれいで驚いた」と笑顔で語ってくれました。

## 穂高神社へ集合 納涼盆踊り

8月2日 第42回穂高納涼祭



6年ぶりに会場を穂高神社北神苑へ移し、穂高地域の夏の風物詩・穂高納涼祭が開かれました。大迫力の太鼓演奏を合図に、地域で活動する団体のステージ発表が披露され、約4500人が夏の夜のひとときを過ごしました。メインイベントの納涼踊りでは、山本扶美枝さん・泉さん親子の歌う穂高音頭・HOTAKAサンバに合わせて櫓を囲み盆踊りを楽しみました。徐々に踊りに参加する人も増え、二重三重の輪となり、熱気にあふれていました。地区の踊り連に参加した大日向和信さん(72・穂高)は「初めての参加だったが、にぎやかでとてもよかった」と声を弾ませていました。

## わっしょい! 声を合わせ踊る夏

7月26日 第46回あづみ野祭り



「あづみ野ばやし」を踊りながら練り歩くあづみ野祭りが豊科駅周辺の国道147号で開かれました。本年は地元の区や企業など33の踊り連・約2300人が参加。そろいの法被やシャツを着た踊り手たちは掛け声と共にうちわを高く上げて飛び跳ねるなど、元気に踊りを披露していました。

市内の高校有志「あずみの高校連合」で参加した豊科高校2年の竹内実与さん(16)は「踊りは小学生以来だったが始まると自然に体が動いた。懐かしい友達にも会えていい思い出になった」と夏休み初日を満喫していました。

## フランス流 おいしく学ぶ給食のヒント

7月25日 有機農産物等を活用した調理講習会



学校給食に有機農産物を取り入れる第一歩として、有機学校給食の先進地であるフランスから講師を招き調理講習会が開かれました。栄養士や調理員、小中学校教職員ら34人が参加し、70人分の給食を調理。有機農産物の使い方や食育の考え方を学んでいました。

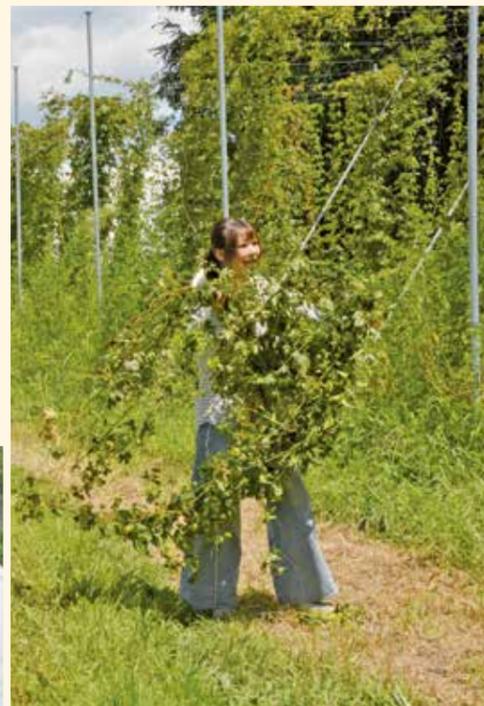
調理講習会を担当した栄養士の塚田香織さんは「現場では有機農産物のことを学ぶ機会が少なかった。今回は調理員、教職員、生産者、行政など多様な立場の人が集まり学べたことが大きな一歩。学んだ内容をそれぞれが受け入れ、子どもたちに還元していきたい」とこれからの目標を語りました。

## 暮らし×農業 安曇野の魅力を感じる1週間

8月5日～11日 信州ワーキングホリデー in 安曇野

農家民宿に泊まり、安曇野の暮らしと農業を体験する1週間のワーキングホリデーに全国各地から5人が参加しました。この取り組みは、県が主催し、「旅をするように地域の暮らし・シゴトを体験する」をテーマに10市町村で初めて開催。参加者は早朝からホップの収穫やトウモロコシの収穫・出荷に汗を流していました。6日には収穫したホップを使ったビールの醸造施設を見学し、実際に味わうなど安曇野産ホップの魅力を感じました。

今回体験を受け入れた斉藤岳雄さん(堀金烏川)は「1週間滞在することで出荷などの一連の過程を体験できる。それらを通じて安曇野のリアルな暮らしを感じてもらい、移住や農業への関心につながれば」と今後の期待を話してくれました。



## 出発進行! 地域の足を支えて110年

7月26日 JR大糸線市内駅開業110周年記念イベント

市内JR8駅の開業110周年を記念するイベント(市地域公共交通協議会・JR東日本長野支社主催)が豊科駅で開かれました。当日は豊科高校吹奏楽部と書道部が華やかなパフォーマンスで節目を祝福。会場は駅長制服を着たアルクマとの記念撮影やeスポーツ体験などを楽しむ親子連れでにぎわいました。また、この日は特別に観光列車・リゾートビューふるさが豊科駅に停車。乗客には地元の3高校が開発した米粉どら焼きが振る舞われました。1日駅長に就任した太田市長の合図で列車が発車すると、駆け付けた大勢の人が手を振って見送りました。発着をホームから見守った小林建太さん(14・松本市)は「貴重な場面を写真に収められて満足」と笑顔を見せてくれました。

